

ブース	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
C1	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・特定講師 祐野 恵 『霞が関の博士人材活用』	自分の研究に関連して紹介したい本	『在宅育児手当の意義とあり方：自治体による新たな現金給付とその可能性』 安藤 加菜子 ミネルヴァ書房	積み重ねてきた学びやその他さまざまな経験、大切にしたいこと、暮らしの現状などに応じて、その人らしい生き方をかなえる制度とは何でしょうか。この本では、そのことを子育て支援に注目して考えました。子どもを世話することに対する現金給付である在宅育児手当を国内や北欧等の実施例から多面的に検討しています。博士人材の研究では、大学院での学びを活かしたい人と、社会や制度との関係を考えていきたいです。
		若者にお勧めしたい本	『職業としての政治』 マックス・ヴェーバー / 脇 圭平（訳） 岩波書店	1919年のウェーバーによる学生への講演をまとめた書籍です。ヴェーバーは、政治家に必要な重要な資質として、情熱・責任感・判断力と説いており、政治とは何か、政治家はどうあるべきかという、ウェーバーの語りかけは、現代にも通ずる内容です。2020年に改版されており、政治の本質を考えてみたい方に、手に取っていただきたい一冊です。
T1	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院理学研究科・博士課程1年 疋田 純也 『何が世界を構成するのか？』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『大栗先生の超弦理論入門』 大栗 博司 講談社	本屋でたまたま見て読んでみたのが始まり。かなり噛み砕かれた説明で、なんか物理ってすごいな、面白いなと感じながら読むことができた。そこから物理に興味を持って大学、大学院と進学して今の自分がある。
		今ハマっている本	『統計学を哲学する』 大塚 淳 名古屋大学出版会	統計がなぜ科学的根拠たりえるのかを説いている。科学をやる上で無意識の前提は何かを考えたい人必見！
		自分の研究に関連して紹介したい本	『宇宙までまるわかり！素粒子の世界』 秋本 祐希 洋泉社	素粒子物理学について擬人化されたイラストを交えてわかりやすく解説。自身の研究を通じていろんな実験を見ると、たまにその擬人化があるか調べてしまう。
T2	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院理学研究科・教授 野口 高明 『宇宙から来た物質を調べると何が分かるのか？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『はやぶさ2は何を持ち帰ったのか？リュウグウの石の声を聴く』 橋 省吾 岩波書店	本展示の野口・松本・竹之内が関わったはやぶさ2の分析の成果がコンパクトにまとめられていてわかりやすい。野口・松本の研究も載っています。
T3	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院工学研究科・助教 村井 俊介 『ナノアンテナって何なの？』	若者にお勧めしたい本	『世界を作った6つの革命の物語：新・人類進化史』 スティーブン・ジョンソン / 大田 直子（訳） 朝日新聞出版	今当たり前になっている生活スタイルの基礎を作った6大発明（ガラス・冷たさ・音・清潔・時間・光）の紹介。現代社会が先人の積み上げた技術・知識の上にあることを実感します。
		若者にお勧めしたい本	『千に一つの奇跡をつかめ！』 千本 倅生 サンマーク出版	稲盛和夫とともに多くのベンチャー企業を立ち上げ育てた千本の半生記。個人の情熱が企業や社会を動かす根本にあるのだ、ということに改めて認識しました。
		若者にお勧めしたい本	『僕は君たちに武器を配りたい』 瀧本 哲史 講談社	京大で教育とエンジェル投資家活動に従事し、先日亡くなられた瀧本哲史先生の著作。終身雇用型社会の次を生きるための指針を示す、さきがけ的著作だと思います。
T4	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院工学研究科・特定研究員 森川 健太郎 『からだ工務店：カブトムシの体の形作り』	自分の研究に関連して紹介したい本	『いきものカタチ 続・波紋と螺旋とフィボナッチ：多彩なデザインを創り出すシンプルな法則』 近藤 滋 学研プラス	出典のカブトムシの形作りの研究は、著者の近藤滋教授（大阪大学）との共同研究から生まれたものです。本書では、カブトムシに加え、複雑怪奇な角を持つツノゼミや、多種多様な形の貝殻、体の建築資材を自ら作り・運び・建てるカイメンなどの形作りについての研究が語られています。わかる実感を得ていく思考過程を追体験できるような語り口は、ただ「知る」のではなく、体験としての「わかる」を読者に与えてくれます。

ブース	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
T6	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院理学研究科・博士課程2年 豊田 直人 『おサルさんの頭の本ネから分かること』	今の仕事（研究、進路）を選ばきっかけになった本	『自然人類学入門：ヒトらしさの原点』 真家 和生 技報堂出版	ヒトの特徴である直立二足歩行や大きな脳が、どのような進化の過程によって出来上がってきたのかを優しく説明してくれています。生き物としての人間に興味をもった方にはお勧めです。
		若者にお勧めしたい本	『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス、小尾 美佐（訳） 早川書房	中学生のときに初めて読みました。今でも時々読み返すことがあります。思いやる心の尊さが身に染みます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『化石が語る サルの進化・ヒトの進化』 高井 正成、中務 真人 丸善出版	実は、、、ヒトや霊長類の化石は、小さな骨や歯の欠片ひとつが見つかることが多いです。そんな数センチくらいの化石から、「その生き物が何を食べていたのか」、「どういう風に過ごしていたのか」といった情報をひきだすプロが古人類学者・古霊長類学者です。そんなプロの研究者が、どうやって科学的に名推移を繰り返しているのか、やさしく解説してくれている本です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『人体六〇〇万年史：科学が明かす進化・健康・疾病（上下巻）』 ダニエル・E・リーバーマン / 塩原 通緒（訳） 早川書房	身体という自分自身のハードウェアについて、その成り立ち、現状、未来を考えるきっかけにしていだければと思います。
T7	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院エネルギー科学研究科 ・准教授 尾形 清一 『太陽光の恩恵を全ての人が享受する技術と社会 -Solar for Allの実現へ-』	今の仕事（研究、進路）を選ばきっかけになった本	『はじめての構造主義』 橋爪 大三郎 講談社	工学系だった私にとって、数学と哲学は共存できるのかもねと勇気をもらった本です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『風の谷のナウシカ（コミックス）（全7巻）』 宮崎 駿 徳間書店	自然と人間の関係を考えるための必読書？
		若者にお勧めしたい本	『無痛文明論』 森岡 正博 トランスビュー	コスバ・タイバが求められる現在、是非とも読み返したい。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『緑のエネルギー原論』 植田 和弘 岩波書店	環境やエネルギーや社会を総合的に考えたい全ての人のために
T8	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院文学研究科・准教授 埴淵 知哉 『頭の中にある世界地図』	自分の研究に関連して紹介したい本	『失われゆく我々の内なる地図：空間認知の隠れた役割』 マイケル・ボンド / 竹内 和世（訳） 白揚社	「頭の中の地図」にまつわる数多くの研究が紹介されています。また、GPSのような便利なテクノロジーが私たちの空間認知に何をもたらすのかなど、興味深い内容です。
T10	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 白眉センター／ヒト行動進化研究センター・特定准教授 鴻池 菜保 『サルから学びともに暮らす』	自分の研究に関連して紹介したい本	『脳のなかの幽霊』 V・S・ラマチャンドラン、 サンドラ・ブレイクスリー / 山下 篤子（訳） KADOKAWA	切断したはずの腕が痛む?! 見えないはずのものが見える?! 神経科学者が多彩な症例から脳のふしぎに迫るとてもエキサイティングな本です! 私は脳の研究に興味をもった大学生のときに単行本で初めて読み、数々の引越しをともにし、いまも我が家の本棚にあります。2011年に素敵な表紙で文庫化されたので通勤・通学のお供にお勧めします。
T11	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院文学研究科・准教授 千葉 豊 『縄文土器に画像生成AIを応用したら』	自分の研究に関連して紹介したい本	『通論考古学』 濱田 耕作 岩波書店	考古学の概説書。今から100年以上前の1922年に刊行された著作であるが、今なおお色あせない内容をもっている。
		今ハマっている本	『鳥獣戯画のヒミツ』 宮川 禎一 淡交社	漫画のルーツとされる鳥獣戯画の謎解き!

ブース	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
T12	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院地球環境学堂・准教授 真常 仁志 『アフリカでゴミを資源にする』	今の仕事（研究、進路）を選ばなかった本	『深夜特急（全6巻）』 沢木 耕太郎 新潮社	海外へ旅して、生活する慣れの始まりは、この本だった気がします。
		今ハマっている本	『途上国の人々との話し方：国際協力メタファシリテーションの手法』 中田 豊一、和田 信明 みずのわ出版	人の行動変容を促すにはどうすればよいのか、途上国での援助を考えている人だけではなく、教育に携わっている方、必読です。目から鱗です。
		若者にお勧めしたい本	『環境倫理学のすすめ』 加藤 尚武 丸善出版	環境問題が人間の価値の問題であること、科学者も当事者であることを深く納得させられました。新版も出ていますが、私自身がしっくりきたのは、この旧版でした。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『土のひみつ：食料・環境・生命』 白戸 康人ら / 日本土壌肥科学会「土のひみつ」編集グループ（編） 朝倉書店	あまり知られていない土のでき方や働きについて、トピック形式で紹介。私は、「砂漠化」について書きました。
G1	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医生物学研究所・教授 河本 宏 『Tリンパ球を使ってがんやウイルスを退治！』	今ハマっている本	『コウモリはウイルスを抱いて空を翔ぶ：生き物たちのネオ免疫学』 新田 剛 ブックマン社	色々な生物の免疫システムを紹介しつつ、生物としての生体防御の仕組みを鳥瞰的な視点から論じている。スケールが大きく、とても面白い。イラストも素晴らしい。超オススメ。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『マンガでわかる免疫学』 河本 宏 / しおざき 忍（作画）、ピーコムプラス（制作） オーム社	免疫学といえば難しいと思われがちだが、マンガを使うことでわかりやすく解説されている。「2人の学生さんが、免疫学を学びながら卒業研究をすすめる」というストーリー。
G2	研究者と立ち話（ポスター / 展示） iPS細胞研究所・講師 中川 誠人 『“じぶん”のiPS細胞で怪我や病気を治す未来！～iPS細胞の歴史・作り方・応用まで～』	今の仕事（研究、進路）を選ばなかった本	『山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた』 山中 伸弥、緑 慎也 講談社	山中伸弥博士が自身の人生とiPS細胞研究について語る一冊です。この本では、iPS細胞の発見からその応用までの道のり、研究に対する情熱と哲学を詳細に紹介しています。私自身、この本を読んでiPS細胞研究の魅力に引き込まれ、現在の仕事を選ぶきっかけとなりました。科学の最前線で起きていることを知り、自らの将来について新たな視点を得られる価値ある内容です。
		今の仕事（研究、進路）を選ばなかった本	『iPS細胞：不可能を可能にした細胞』 黒木 登志夫 中央公論新社	iPS細胞の奇跡的な発見とその応用可能性を詳しく描いています。基礎から臨床応用までの道のりや、研究の挑戦と努力が詳細に紹介されています。この本を通じて、iPS細胞研究の深さと広がりを感じ、現在の仕事を選ぶ大きなきっかけとなりました。科学への情熱を再確認し、再生医療の未来に期待を膨らませてくれます。
		今ハマっている本	『LIFESPAN（ライフパン）：老いなき世界』 デビッド・A・シンクレア、マシュー・D・ラブラント / 梶山 あゆみ（訳） 東洋経済新報社	老化のメカニズムを解明し、長寿の可能性を探る本です。科学者や医療従事者はもちろん、健康に興味がある一般の方にもぜひ読んでいただきたい本です。社会の期待に応えられる研究成果を出すのはいつだって困難を伴いますが、この本は、成果を出した後について考えさせられる点で他の本より興味深いと感じています。
		若者にお勧めしたい本	『iPS細胞かるた』 京都大学iPS細胞研究所（編） 東京書籍	京都大学iPS細胞研究所が監修した、かるた形式のガイドブックです。iPS細胞について楽しく学ぶことができ、基礎知識を身につけるのに最適です。これから生物学を学ぼうと考えている小中学生にとって、iPS細胞だけでなく、科学そのものを身近に感じるきっかけとなり、未来の研究者としての第一歩を踏み出すためのインスピレーションを与えてくれます。遊びながら学べるので、友達や家族と一緒に楽しむことができる教材です。
		若者にお勧めしたい本	『iPS細胞の研究室：体のしくみから研究の未来まで』 志田 あやか / 京都大学iPS細胞研究所 国際広報室（編） 東京書籍	山中伸弥博士と彼のチームがiPS細胞の研究を進める過程を詳しく描いています。iPS細胞の基礎から応用まで、科学的な発見とその背後にある努力と情熱をリアルに伝えています。若者にとって、科学の最前線で起きていることを知る貴重な機会となるでしょう。研究の現場にいる科学者たちの姿に触れることで、自らの将来についても新たな視点を得られるはずです。

ブース	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G2	研究者と立ち話（ポスター／展示） iPS細胞研究所・講師 中川 誠人 『“じぶん”のiPS細胞で怪我や病気を治す未来！～iPS細胞の歴史・作り方・応用まで～』	若者にお勧めしたい本	『山中iPS細胞・ノーベル賞受賞論文を読もう：山中iPS2つの論文（マウスとヒト）の英和対訳と解説及び将来の実用化展望』 山中 伸弥 / 西川 伸一（監修）、ニシカワ & アソシエイツ（訳） 一灯舎	山中伸弥博士のノーベル賞受賞論文を英和対訳と解説で提供しています。iPS細胞研究の基礎から応用までを理解するのに役立ち、将来の実用化展望についても触れています。科学に興味がある若者にとって、論文を通じて研究の深さと広がりを感じることができる貴重な一冊です。科学者の思考過程や発見のプロセスを追体験し、自らの研究に対する情熱をさらに高めることができます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『iPS細胞の歩みと挑戦』 中内 彩香、和田瀧 裕之 / 京都大学iPS細胞研究所 国際広報室（編） 東京書籍	山中伸弥博士がiPS細胞研究の道を歩む中での経験や思いを語った一冊です。iPS細胞の発見からその応用、さらに人生哲学に至るまで、幅広い視点で述べられています。私自身の研究とも密接に関連しており、特にiPS細胞の基礎研究から臨床応用までのプロセスや、再生医療における課題と未来について深く学ぶことができます。知的好奇心が刺激され、自らの研究に対する情熱をさらに高めることができます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『最新ES細胞 iPS細胞：再生医療、創薬、病気の解明……。新たな可能性にせまる』 ニュートンムック ニュートン別冊 ニュートンプレス	少し古いと思われる方も居られるとは思いますが、iPS細胞の発見と活用法について詳細に解説した良書です。再生医療に関心があり、理解を深めたいと考えているすべての人におすすめで、現代医学研究の最前線に触られます。
G3	研究者と立ち話（ポスター／展示） 大学院医学研究科・大学院生 Xiaoyan Ren 『ヒトゲノム改編の匠を目指す！』	自分の研究に関連して紹介したい本	『ゲノム編集とはなにか：「DNAのハサミ」クリスパーで生命科学はどう変わるのか』 山本 卓 講談社	ノーベル賞を受賞したCRISPR-Cas9技術を含む「ゲノム編集」について包括的に学ぶことができます。日本はゲノム編集領域で非常に強く、昨今ではゲノム編集食品がいくつか登場してきています。私たちの研究室でも遺伝学を研究するために応用しています。
		若者にお勧めしたい本	『生命はデジタルでできている：情報から見た新しい生命像』 田口 善弘 講談社	次世代シーケンサーというDNAを大量に読み取る装置ができてから、生命科学は根本的に変わりました。特に、次世代シーケンサーだけでなく、他の測定装置も急速に発展しているため、取得できるデータが巨大なものになってきています。そこで重要な考え方が本書のタイトルにもあるデジタル的思考です。本書では生命において重要なDNA、RNA、たんぱく質におけるデジタル情報の世界を学ぶことができます。
		今ハマっている本	『ホワット・イフ？：野球のボールを光速で投げたらどうなるか』 ランドール・マンロー / 吉田三知世（訳） 早川書房	私は科学は疑問、つまりWhy?の上に成り立っていると考えています。この本はその疑問を追求した本です。日常では「起こり得ないことが起きた時どうなるか」を科学で明らかにします。一見バカげた質問ばかりですが、それに対する回答を見るとワクワクしてきます
		今の仕事（研究、進路）を選ばきっかけになった本	『もやしもん（全13巻）』 石川 雅之 講談社	もやしもんは「微生物が見える特殊能力」を持った主人公が繰り広げる日常を描いた漫画です。本書籍を通して、見えない微生物やたんぱく質が社会で重要な役割をしていることを学び、生命科学者を志すようになりました。

ブース	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G4	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医学部附属病院・特定助教 森 拓也 『医学系研究における倫理的懸念事項の数値化への挑戦』	今ハマっている本	『ゼロから作るDeep Learning（5）：生成モデル編』 斎藤 康毅 オライリー・ジャパン	今流行りの生成AIは便利に使えすぎますが、気になるその中身（構造）を知るには最適な本でハマっています。AIが「推論するか否か」問題も個人的にハマっています。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『みんなの研究倫理入門：臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか』 田代 志門 医学書院	研究倫理とは何かを実例ベースで書かれており、研究者だけでなく、一般の方にも研究倫理を理解しやすい本ですので、おすすめです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『相談事例から考える研究倫理コンサルテーション』 松井 健志（監修・編著） / 山本 圭一郎、伊吹 友秀、井上 悠輔（編著） 医歯薬出版	医学系研究に関する研究倫理上の相談事例をもとに様々な問題を解説する専門書籍で、生々しい事例の数々は類を見ないと思います。倫理審査側だけでなく、医学系研究に携わる方々や研究倫理を学びたい方にもおすすめです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Rethinking Informed Consent in Bioethics』 Neil C. Manson, Onora O' Neill Cambridge University Press	古い本なのですが、こんな昔から、インフォームドコンセント（IC）は共同意思決定のプロセスとして、信頼関係の構築に伴う、柔軟なICの考え方を学べて衝撃でしたので、おすすめしています。
G6	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院理学研究科・准教授 川又 生吹 『DNAオリガミ技術とアクティブ生体分子システムの紹介』	自分の研究に関連して紹介したい本	『DNA origami入門』 川又生吹、鈴木勇輝、村田 智 オーム社	共同研究者と一緒に私が執筆した書籍です。DNAオリガミの基礎から応用について、基本的な事項から丁寧に書くよう心がけました。数百点に及ぶ図を一から作成したため、苦労も多かったのですが、わかりやすく書くことができました。
		若者にお勧めしたい本	『ゲーデル：不完全性定理』 ゲーデル / 林 晋、八杉 満利子（訳） 岩波書店	情報科学の学生として読んだ書籍で、ゲーデルの不完全性定理の数学的な意義に興味を持ってた本です。さらに数学そのものの面白さのみならず、当時の数学界の歴史的・政治的な流れが書かれており、読みごたえもありました。
		今ハマっている本	『コーヒーの科学：「おいしさ」はどこで生まれるのか』 巨部 幸博 講談社	普段何気なく飲んでいるコーヒーですが、本書籍では、歴史、技術、科学の視点でコーヒーを見たときの情報が詳しく書かれています。ものによっては、良くわかっていない、という話題もあり、知的想像力をかきたてられます。
G7	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・特定教授 田中 司朗 『臨床統計学－医療に貢献する科学－』	今ハマっている本	『将棋指しの腹のうち』 先崎 学 文藝春秋	藤井聡太7冠の影響で、将棋メシ、勝負メシが人気ですが、おもしろくもほろ苦い将棋メシの数々が描かれています。将棋界のことを書かせたら右に出る者はいない先崎九段による棋譜が一枚もない将棋の本、将棋はまったくわからないわたしですが読みだしたらやめられないし、くり返し読んでいます。「うつ病九段」もお薦めですが、話が重いのでこちらを紹介します。
		若者にお勧めしたい本	『ロウソクの科学』 マイケル・ファラデー / 三石 巖（訳） KADOKAWA	燃えているロウソクを想像してほしい。なぜ木でも紙でもない物質が炎を灯すのだろうか。溶けたロウはどこにいくのか。光や熱に変わるのだろうか。燃焼が起きるためにはなにが必要なんだろう。科学とは、日常にある疑問の答えを探す旅である。物理や化学の教科書には旅の行先しか書いていない。科学の道程で発見されてきたわくわくするような風物や見聞が、1861年ロンドンの少年少女に語られた。本書はその講演録である。
		今ハマっている本	『赤いダイヤ（上下巻）』 梶山 季之 集英社	赤いダイヤ=小豆の相場を巡る壮絶な仕手合戦を描いた大衆小説。郷田九段が先崎九段に「赤いダイヤはいい小説じゃないか」といったというエピソードを知って本書を手にとった。確かに昭和の雰囲気をもった極上のエンターテインメントで、投機に翻弄される人間模様へのめりこんでしまい、1000ページにわたる長編にもかかわらず一気に読んでしまった。
		今ハマっている本	『遠山啓のコペルニクスからニュートンまで』 遠山 啓 太郎次郎社エディタス	1985年に出版された本です。タイトルにあるようにとおりコペルニクスからニュートン時代までの物理学と数学の展開が書かれています。歴史的な背景あり、実験の紹介あり、さまざまな挿絵ありと非常にユニークな内容です。市民講演講座が基になっているらしいのですが、私もこういう内容の授業をしてみたいと思いました。

ブース	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G8	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医学部附属病院・特定講師 渡邊 卓也 『同意取得が障壁になる時、倫理委員 会は何を考えるか』	自分の研究に 関連して紹介 したい本	『みんなの研究倫理入門：臨床 研究になぜこんな面倒な手続き が必要なのか』 田代 志門 医学書院	研究倫理が問題になるエピソードや、インフォームド・コンセ ント、リスク・ベネフィット評価などについて、わかりやすく 説明されています。登場人物たちの対話形式で内容が進行して いくので、とても読みやすくおすすめです。
G9	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院情報学研究所・准教授 後藤 幸織 『行動依存症とは？～ギャンブル、 ゲーム、スマホから 窃盗まで～』	自分の研究に 関連して紹介 したい本	『スマホ脳』 アンデシュ・ハンセン / 久山 葉子（訳） 新潮社	行動依存症についての一般向け書籍
		自分の研究に 関連して紹介 したい本	『私が欲しかったもの』 原 裕美子 双葉社	窃盗症についての一般向け書籍
		自分の研究に 関連して紹介 したい本	『僕らはそれに抵抗できない： 「依存症ビジネス」のつくりか た』 アダム・オルター / 上原 裕美 子（訳） ダイヤモンド社	行動依存症についての一般向け書籍
G10	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・特命教授 高橋 良輔 大学院医学研究科・講師 眞木 崇州 大学院医学研究科・特定准教授 山門 穂高 『認知症、その未病の正体に迫る』	若者にお勧め したい本	『時計遺伝子：からだの中の 「時間」の正体』 岡村 均 講談社	私たちの体内時計を制御する「時計遺伝子」により全身の生体 リズムが形成される巧妙で美しい機構が、この分野のトップレ ベルの研究者により分かりやすく書かれています。また、睡眠 障害や生活習慣病が生体リズムの異常と関連することも、その メカニズムとともに詳しく示されています。筆者が長きにわ たって強い情熱をもって真摯に没頭されてきた研究の歴史に深 い感銘をうけました。（出展：眞木）
		若者にお勧め したい本	『フェルマーの最終定理』 サイモン・シン / 青木 薫 （訳） 新潮社	数学界最大の超難問に挑戦した天才数学者ワイルズを中心とし たノンフィクション。宇宙の真理にもつながる極めて美しい数 学世界の偉業で、人類の英知の一つの到達点であるが、我々の 目の前の難題も決して解決が不可能ではないと思わせ、勇気づ けてくれるような内容の本です。ただし、それには現世的ない くつかの大きな犠牲が必要ですが、。（出展：山門）
G11	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院文学研究科・博士学生 伊沢 亘洋 『コロナ禍におけるパンデミックポス ターの分析』	自分の研究に 関連して紹介 したい本	『環境リスクと合理的意思決 定：市民参加の哲学』 クリスティン・シュレーダー＝ フレチェット / 松田 毅（訳） 昭和堂	本書は環境リスクについて扱った本である。定量的予測が難し いにもかかわらず、社会的影響も大きいために、ある種無理矢 理にでも予測や基準値を定めなくてはいけないという状況下 で、何が最良のやり方なのかを検討している。分野は異なるも のの、今回のコロナ禍における専門家会議も似たような状況 だったように思う。 「科学には予測の限界があるし、市民から予測を外した責任を 取れとも言われるし、もう市民の勝手にしたらいいじゃ ん。」と思いかけている方へおすすめ。
G12	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医学部附属病院・特定准教授 西村 勉 『千年の恵み：地域再生と若者の未来 を創る』	若者にお勧め したい本	『青春漂流』 立花 隆 講談社	人生に悩んだ時に読みました。

ブース	登壇者等	推 薦 図 書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
ちゃぶ a1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 ヒト行動進化研究センター・准教授 足立 幾磨 『動物のこころの研究を通して動物を知る、ヒトを知る ーチンパンジーのこころの研究を中心にー』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『比較認知科学への招待：「こころ」の進化学』 藤田 和生 ナカニシヤ出版	動物たちの「こころ」を科学する比較認知科学という学問をわかりやすく説明した初学者向けの本。まず、比較認知科学の基本的な考え方や研究方法を概説があり、その後様々な動物の実際の認知活動に関する諸事実を紹介している。
ちゃぶ a2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院文学研究科・教授 宇佐美 文理 『中国の山水画はなにを描いているのか』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『走れメロス』 太宰治 岩波書店	医学部志望だったのを、高校三年生の秋、これを読んで、文学部志望に変えました。
		若者にお勧めしたい本	『杜甫』 川合 康三 岩波書店	この本をたよりに、世界文学として、杜甫を読んでほしいと思います。
ちゃぶ a3	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 総合博物館・研究員 高野 紗奈江 『‘ひかり拓本’、縄文原体を可視化する』	自分の研究に関連して紹介したい本	『比叡山麓の縄文世界』 京都大学総合博物館 六一書房	‘ひかり拓本’による縄文原体および縄文土器の細部の可視化に興味を持った方に、ぜひご覧いただきたい1冊です。
ちゃぶ a4	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院理学研究科・助教 宇高 寛子 『ナメクジってどんな生き物？』	今ハマっている本	『千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が、一度も海外に行ったことがないままルーマニア語の小説家になった話』 済東 鉄腸 左右社	なぜ外国語（主に英語）を勉強するのか、という疑問を多くの人が一度はもったことがあると思います。学校での勉強を離れた語学学習（というと軽すぎますが）が行きつく先のすごさ、何かにかける人の執念や情熱のすごさを感じられる一冊です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『カタツムリハンドブック』 武田 晋一（写真）／西 浩孝（解説） 文一総合出版	お手軽なうえに、近場で見られるナメクジを網羅している一冊です。カタツムリの多彩さとナメクジの少なさにもぜひ注目してください。
ちゃぶ b1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院エネルギー科学研究科・助教 松井 隆太郎 『光で表現する相対論の世界』	若者にお勧めしたい本	『精神科医が教える ストレスフリー超大全』 樺沢 紫苑 ダイヤモンド社	何かとストレスが多い日々ですが、気持ちを軽くするための考え方のヒントがたくさん詰まっています！